

笑いにみられる子どもの構えの発達

吉本桂子・中川貴子

一、調査目的

笑いには、微笑、哄笑、冷笑、苦笑、うわべの笑い、泣き笑いなどさまざまな笑いがある。その多くは相手の人との心的な動きかけのある状況のもとに発生する。つまり、笑いは対人関係のあり方にかかわりがあるのである。あるいは、対物関係のあり方ともかわりがあるともいえるであろう。

たとえば、あるマンガを読んで、笑う者と笑わない者、同じ笑うにしても、爆笑的に笑う者とせせら笑う者と千差万別である。個々の笑い方を聞いただけでも、それが誰であるかわかるぐらい、一人一人の笑いには癖があるのである。それぞれの笑いを聞き、ことばとしてとらえた時に、おのずとその笑いに含まれる意識を意識化するのである。つまり、さまざまな笑いのことばを人間が習得するということは、笑いに對する意識のもち方、すなわち、構えを習得することになる。

もちろん、その意識の修得のしかた、修得の段階は個々において、それぞれ違いがあるだろうし、それは、一般に

いわれる性格とも何らかの関係があると思われる。

そこで、笑いにともなうことばを追求することによって子どもの構えがどのように変化し、発達していくか基礎的な資料を得、さらに、子どもの性格とのかかわりあいについても、みることでできたらと思う。

二、調査方法

笑い方の種類をことばで探せば、大わらい、爆笑、高笑い、微笑、破顔、噴飯、嘲笑、冷笑、あざ笑い、せせら笑い、しのび笑い、ぬすみ笑い、失笑、にが笑い、てれ笑い、泣き笑いなどあげられるが、これらをふまえて、無作為に三十四項目の笑いをとり出して次のような調査を試みた。

(1) 調査Ⅰの問題

わらい方には、いろいろあります。次に書かれているわらいかたの中で、あなたがいちばんすきなわらい方には○を、一ばん、きらいなわらいかたには×をつけなさい。(○と×は一つずつです。)また、そのわらいかたがどうしてすきか、またどうしてきらいか、

そのわけも書きなさい。

(2) 調査Ⅱの問題

あなたがわらう時は、どんな時ですか。その時、あなたはどんなふうに笑っていますか。自分でかけるだけ書いて下さい。

(3) 調査Ⅲの問題

あなたは次のような笑い方を聞いた、みたりした時に、どんな事を思いうかべますか。二つをえらんで思いうかべることを書きなさい。

(4) 笑いの項目

- | | |
|------------|-----------|
| (1) ハハハハ | (2) ワッハハハ |
| (3) アハハハ | (4) ウハハハ |
| (5) アッハハハ | (6) ゲラゲラ |
| (7) ホホホホ | (8) オホホホ |
| (9) フフフフ | (10) ヘヘヘヘ |
| (11) ウフフフ | (12) エヘヘヘ |
| (13) フッフッフ | (14) ヒヒヒヒ |
| (15) ケケケケ | (16) クスクス |
| (17) クククク | (18) ブツ |
| (19) ケタケタ | (20) イッヒヒ |
| (21) ウシシ | (22) ケラケラ |
| (23) ヘラヘラ | (24) ウシウシ |
| (25) ブツ | (26) ウヒヤー |
| (27) フン | (28) ニッコリ |

三、調査の対象及び人数

(一) 調査Ⅰ

一年	東京	町田第三小	計 126 名
	横浜	四谷小	
		大正小	
二年	東京	町田第三小	計 136 名
	横浜	四谷小	
		南海小	
		中山小	
三年	東京	町田南四小	計 137 名
	横浜	町田第二小	
		汐見台小	
		大正小	
四年	東京	町田第四小	計 144 名
		松ヶ丘小	
		玉川小	
五年	東京	藤野台小	計 147 名
	横浜	ひのき小	
		俣野小	
六年	東京	相原小	計 149 名
	横浜	汲沢小	
		大正小	

(二) 調査Ⅱ

一年	東京	町田第三小	計 74 名
	横浜	大正小	
二年	東京	町田第三小	計 84 名
	横浜	中山小	
三年	東京	町田第二小	計 72 名
	横浜	汲見台小	
四年	東京	松ヶ丘小	計 70 名
		町田第四小	
五年	東京	榎町小	計 68 名
	横浜	俣野小	
六年	横浜	大正小	計 84 名

(三) 調査Ⅲ

学年	調査校	男	女	計
一年	四谷第一	12	11	計 23 名
	聖徳小	13	11	計 24 名
	大正小	21	17	計 38 名
二年	四谷第一	18	12	計 30 名
	南海小	17	15	計 32 名
三年	町田南四	24	16	計 40 名
	大正小	20	18	計 38 名
	大正小	23	16	計 39 名
四年	町田第四	19	18	計 37 名
	玉川学小	14	21	計 35 名
五年	町田第四	19	18	計 37 名
	藤野台小	21	16	計 37 名
	藤野台小	20	16	計 36 名

(四) 実施期間

五十二年二月より五月まで。

調査 1 と調査 2 との関連、調査 1 と調査 3 との関連をみるために、調査 1 と調査 2、調査 1 と調査 3 をそれぞれ一組にして調査した。

四、調査結果と考察

まず、調査一の A のグラフから、好きな笑い方の上位五つを取り上げてみると一年では、「ハハハハ・ゲラゲラ・オホホホ・ニコニコ・ニコッ」、二年では、「ハハハハ・オホホホ・ニコニコ・ワッハハハ・アハハハ」三年では、「アハハハ・ハハハハ・ワッハハハ・アッハハ・フフフ」、四年では、「ワッハハハ・アハハハ・ハハハハ・アッハハ・ウフフ」、五年では、「アハハハ・ハハハハ・ワッハハハ・アッハハ・クスクス・ウヒヤ」(クスクス・ウヒヤとも四%)、六年では、「アハハハ・ハハハハ・ワッハハハ・アッハハハ・ニコリ」となっている。

これらを見て気づくことは、一年から六年まで「ハハハハ・ワッハハハ・アハハハ」など、爆笑的、大笑的な笑

いを好む者が多く、その理由としては、調査一の B より、「元気が良い、明るい、活発、健康的、おもしろいから。」ということになる。

逆に、調査一の A から、嫌いな笑い方を見てみると、一年では、「ブッ・キャッキヤ・ブッ・ゲラゲラ・ヒヒヒ」、二年では、「オホホホ・ブッ・キャッキヤ・ゲラゲラ・ブッ」、三年では、「ヒヒヒヒ・オホホホ・ブッ・ニタニタ・ブッ・イッヒヒ」(ブッとイッヒヒとも五%)、四年では、「オホホホ・ヒヒヒヒ・ケケケケ・イッヒヒ・ブッ・ニタニタ」、五年では、「オホホホ・ニタニタ・ゲラゲラ・ケケケケ・オホホホ」、六年では、「オホホホ・ニヤニヤ・ニタニタ・ウシシ・ニヤッ」となっている。

特に、嫌いな笑い方の筆頭に、二年

以上は「オホホホ」を取り上げており、先の好きな笑い方に、一年、二年が「オホホホ」を選んでいることと比較するとおもしろい。二年では、「オホホホ」を好きとする者、十%、嫌いとする者、十三%と約同じであり、二年が「オホホホ」の好き嫌いの過渡期となっているようである。その理由を取り上げてみても低学年では、「オホホホ」は、かわいらしい女の子らしいと受けとめているのに対して、高学年では、教育ママ、上品ぶっている、お高

い、金持ちのおばさんにとらえている者が多く、これは、現在の受験中心の勉強、それに対する母親のイメージ、テレビなどの影響から来るものであるうか、低学年から高学年への推移がもしろい。

また、嫌いな笑い方では、「ニタニタ・ニヤッ・ニヤニヤ」など、嘲笑、せせら笑う傾向のある者が多くなってきた。これらは先の爆笑や大笑を好む傾向が多いのに対して声を出さない、表情だけの笑いを嫌っているというところでうなずける。

全体的に低学年では、好き嫌いの傾向が分散しているが、高学年になると自分の好き嫌いの好みははっきりしてくるようである。これは、低学年では、音からくる感覚を、他のものに置き換えて解釈しているが、高学年になると内容的に深く心情をとらえている。

一般に、好きな笑い方の率が高いものは、嫌いな笑い方の率も低く、嫌いな笑い方の率が高いものは、好きな笑い方の率も低いようである。また、同じ笑い方でも、「キャッキヤ」のように低学年では、さるのようだから嫌いと感じているが、高学年になると、かわいらしいと変化してくるもの、「ブッ・ブッ」は、おならのようだと低学年に嫌われているのに対して、高学年では無視されている、この点に、低学

年では、音から感覚をとらえていることがわかり、低学年から高学年への成長がみられるようである。

次に、調査二の表を見てみよう。これは、どんな時に笑いたいかを自分で書けるだけ書いてもらい、それを四つの型に分類してみたものである。

A……形容詞で表わされているもの
B……「変な」ということばがついて表わされているもの

C……自分から何かをしたことを表わしているもの

D……他人が何かをしてそれを見た時、他人から何かをされたことを表わしているもの

特に、Bの型は、思い浮かべる中に「へんな」というものがあり、子供の中にある「へんな」とは、いったい何なのかを特にみて、笑いなどのような関係があるのかを考察するために特別に設けたものである。

この表では、二学年以上にそのイメージが浮かんだものを棒グラフに表わした。全体的には、高学年になるに従って、やはり、イメージも多くなり、それだけ、多くの構えを修得しているということがいえる。A型の「おもしろい時」、C型の「マンガを読む時」、テレビを見る時、ふざけた時、にらめっこをした時」、D型の「人にくすぐら

れた時、みんなが笑う」となどは、全学年に思い浮かぶものである。低学年が、語彙も少なく、いたずらをしたりくすぐられたりなど単純なことで笑うのに対して、高学年になると「思い出した時」、一人で空想した時」など、何も対象がない場合の笑いもみられ、また、「自分だけができた時」「人がバカ笑いをする時」「人が静かにしている時、人がわざと笑う時」など違った点がみられる。つまり、高学年になればなるほど対人関係が広くなり自分の感じとしてのみ受けとめるのではなく、常に彼我関係を意識している。そこでは単なる笑いだけでなく、他とのかわりあいにおける自分の構えが生じ、その構えが笑いの中にみとれると考えたからである。しかし、実際に調査してみると、笑いたい時の場面の数は、四年までは順調に広がるが、五年で落ちこみ、六年でまた広がるというようになった。特に、先に述べた、「へんな」という時に笑いたいという者が四年生では非常に多く、また、項目も七つあって、いちばん多い。「へんなことを言う、へんなことをする。へんな顔、へんな声、へんな笑い方、へんなかつこう、へんなテレビ」などにまつわる「へんな」とはいったい何か。おそろく性的関心がそろそろ芽生え始め、テレビや本の影響、秘密に興味をもって

いるこの学年が、もやもやとした、どうにもならない気持ちをとらえ始めたからであると思われる。さすがに高学年になると、ぬすみ笑い、忍び笑い、失笑、苦笑など彼我関係を意識した傾向が目立ち始める。また、五年の落ちこみは、他学年が自分の構えを素直に出して回答したのに対し、回答以前に自分の構えをつくり、自分の構えをださなかったためではなからうかと考える。

さて調査三であるが、この調査はいろいろな笑い方の音から、子供はどのようなイメージを浮かべるか調べたものである。調査三—A₁はどの笑い方に回答した者が多いかをグラフにあらわしたものである。(三十四種類あるため多きが散らばったので五割以上のものを取りあげた)またその下に示してあるイメージは、各学年で多く出たイメージと、注目すべきイメージをピックアップし(一)内にその学年名を示した。

A₂表の方は五割以下の笑いである。一番多いイメージも注目すべきイメージもA₁表と同様に列挙してみた。

これを見ると、A₁表で挙げられている笑いは調査一で笑い方の好き嫌いで多きがかったものが良し悪しに関係なくイメージとして浮かびやすいことがわかる。また、一番多いイメージの浮かび方と調査一で行なった好嫌の理由とが、ほとんど一致している。ただ、

理由というときと、イメージとは、その出方は少し違うように思える。理由のときは「……だから」と必ずつけることにより考えようとするし、イメージのときは自分の思いを広げる自由さが伴う。従って、イメージの方が理由のことばの出方よりも当然の事ながらおもしろい。これを注目すべきイメージで拾ってみたのであるが、表を見てもわかる様に、注目すべきイメージで、出しているのはほとんどが、四・五・六年である。これは、一・二・三年生ではまだ、理由とイメージとの区別があまりついていないということにもなると思う。

その一例をあげて見ると、一番多いイメージを拾ってみると、どれも音に引きずられている場合と、安易に場面を想定できる語が多い。だが、注目すべきイメージを拾ってみると、

ワッハハ(豊かな感じ) 3・5・6年
ハハハ(明朗活発な人) 6年
アッハハ(負けそう) 4年
ニッコリ(すがすがしい) 5年
ニヤツ(ぶ気味) 6年
と、笑いを感じて受け止めている語が多い。これはわけでは拾えなかった語であるし、笑いに伴う雰囲気やそろそろ音だけではなく、高学年はとらえはじめてきていることがわかる。
今まで述べてきた中で、子どもたち

が音に引きずられる段階と、雰囲気だけで笑いとらえはじめてきている段階とを考えてきたが、ここにあげた笑いそのものに、もう異う要素があるように思う。そこで、左記の様に大ざっぱに区別して考えてみることにした。

A 音声を伴い自然発声的笑い

ハハハ・アハハ・ワッハハ・アッハハ

B 音声を伴い、下品さが入る笑い

グラグラ・クタクタ・ケラケラ・キヤツキヤツ

C 音声を伴い、意識して笑う笑い

オホホホ・ヒヒヒ・イッヒヒ・フフフ・ケケケケ

D 音声を押し殺して笑う笑い

クスクス・クツクツ・プツ・プツ・フツフツ

E 音声のない笑い

ウヒヤ・ウシシ・ウシウシ・フフン
ヘラヘラ・ニコリ・ニコツ・ニヤツ
ニコニコ・ニヤニヤ・ニタニタ

こうして考えてみると、簡単にイメージが湧かないというのは、最後の音声を伴わない笑いである。A表でも、ほとんど注目すべきイメージがなかった。13語中5語だけである。しかし、この5語中2語には、その発達が見られるイメージがあった。

ニタニタ（笑っているかどうか（2年V））疑しい。（無理に笑っている（2年V））と音声のないことを気にし

ている段階から、（堂々としていない（5年V））（いやしい男の人（5年V））へと笑いから態度に移ってくる。「いやらしい」という語は子どもたちは口にするが、人品いやしいということまでは、なかなか考えないものである。だがニヤニヤという笑いにはどこか人をさげすむようなニュアンスがあると子どもたちは感じはじめてるように思う。

ニヤツもそうである。ぶきみ（6年V）↓自信たっぶり（6年V）↓思い出し笑い（6年V）と、その音を伴わずにいる笑いの声なき声にふ気味さを、暑苦しい自信を思い合わせられるのであらうと思える。伺い知れない、いや油断できないぞ、という感じが、ニヤツのそれには潜んでいると思いはじめてきているのが、五・六年の段階だろう。

先程、笑いをいくつかにかけてみた音声の上品・下品・意識・音のあるなし、そうするとやはり笑いの集中は、Aの自然と考えられる大笑いになる。調査一的好嫌も、イメージもそうである。これは調査二でもわかる様に笑いは、「おもしろさ」を伴う笑いが一番子どもたちの基本になっていることからもうなずける。六才児・十二才児においては少くとも笑いにおいては健康的であるということである。

見落せないのはBの下品な笑いにも、

ずいぶん票が集まっていることである。調査一的好悪でそれがはっきりしている。上品ぶるということが出たが、必ずしも下品を子どもたちは嫌わない。かえって下品であることが笑いの対象にもなっているのである。調査二の「へんな」がその良い例である。また、他人の失敗を見ることのあの喜びよりは、やはり下品さのなせるわざである。小学校の児童の実態はこの程度ということである。

Cの押し殺す笑いになるとあまり票が集まらずにいる。これはしくまれたり、たくらみをもってしたりするので、ある程度思考を伴わせないと出来ない笑いだからだろう。中学年に多い笑いである。Dの意識して笑う笑い方も、中学年がトップである。

Eの声なき声については、もう述べたが、反応度は、調査一の嫌いに多に高いだけで、あとはほとんど、子どもたちに無視されている。これは音声を伴わないので、想定が、なかなか出来ず、高度になるのだらう。しかし先程も述べたように調査三のイメージの中では、高学年では、音声がなかったためにかえってそのイメージが自由で広がりやすく、おもしろいイメージが多く出ているのも、見のがせない。そうなる

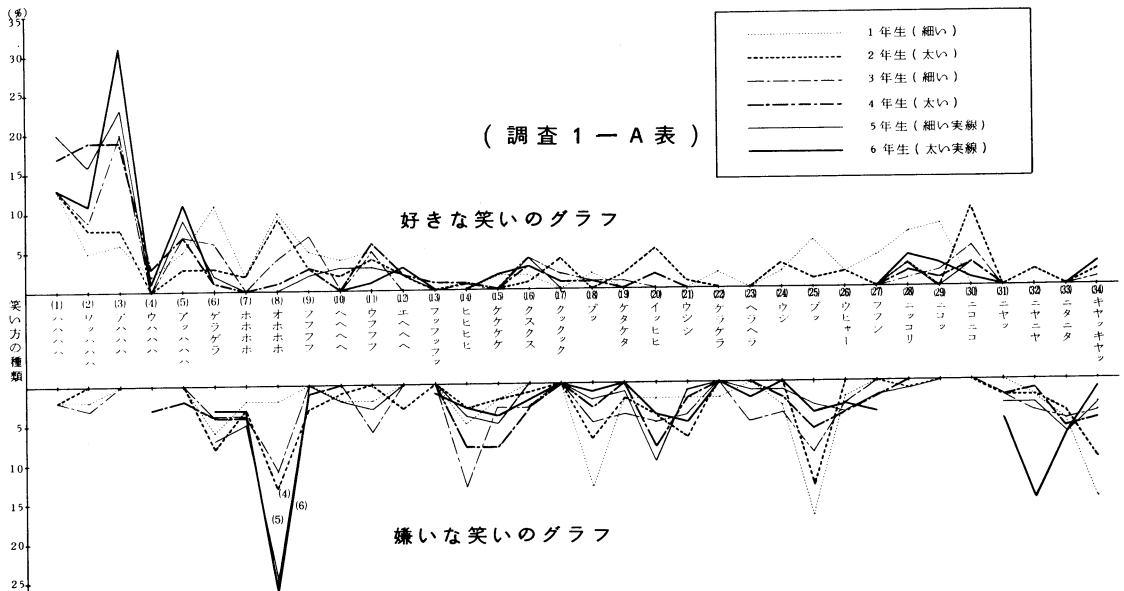
とこの種の笑いは、笑うという範囲だけでなく、その音から、形態をもイ

メージとしてとらえられるのだらう。「ヘラヘラ」は、いつも子どもたちがしているにもかかわらず、%が低い。これがその良い例である。またそれを感じている子はこの語に、「もやし」（6年V）というイメージをつけている。

六年生位になるとそろそろその表面の声をききつけるだけでなく、その笑いの音声からくる感じ取り方が多種多様になってきていると思われる。この笑いの調査は、発達を追うというよりむしろ、自然感覚を見る結果になったといえよう。

このA・Eまでの笑いの区別、そして、その反応を見た結果、多方面にわたり、そのアンテナの伸びが違うことがわかった。そのアンテナの伸びを私たちは構えと呼んでいる。自然感覚をつきつめていくとその子の持っている構えが表われてくる。今回の調査はそこまではいかなかったが、子どもたちと笑いの音との関連が、これ程、多岐にわたるということ、それなりの感覚発達が見られたように思う。

（川崎・京町小教諭・吉本桂子）
（横浜・大正小教諭・中川貴子）



調 査 2 表

	笑いたい時	1	2	3	4	5	6年
A	形わ	おもしろい時					
	容さ	おかしい時					
	詞れ	楽しい時					
	であ	嬉しい時					
	い	恥ずかしい時					
B	らる	てれくさい時					
	変	変なことを言った時					
	な	変なことをした時					
	い	変な顔をした時					
	う	変な声					
C	こ	変なことば					
	と	変な笑い方					
	ば	変なかつこう					
	自	マンガを読む時					
	分	テレビを見る時					
D	が	本を読んでいる時					
	何	遊んでいる時					
	か	おもしろい絵を見て					
	を	おもしろい話を聞く					
	し	おもしろい顔をする					
E	た	しゃれを聞いた時					
	こ	まんざいを聞いた時					
	を	冗談を言った時					
	し	いたずらをした時					
	た	人をおどかした時					
F	こ	人をばかにした時					
	と	人をからかった時					
	を	人の物を隠した時					
	表	自分だけができた時					
	わ	おこる時					
G	し	くだらない時					
	て	ふざけた時					
	い	にらめっこをした時					
	る	いいことをした時					
	物	物を食べる時					
H	顔	顔を合わせると					
	お	おかしいことをする					
	2	0 面相を見た時					
	勉	勉強の時					
	お	しゃべりをする時					
I	思	思い出した時					
	一	人で空想した時					
	か	かくしごとをした時					

各学年 10 % をこえる好きな笑い (% 多い順)

	1 位	2 位	3 位
1 年	(1) ハハハハ		
2 年	(1) ハハハハ	(30) ニコニコ	
3 年	(3) アハハハ	(1) ハハハハ	
4 年	(2) ワッハハハ	(3) アハハハ	
5 年	(3) アハハハ	(1) ハハハハ	(2) ワッハハハ
6 年	(3) アハハハ	(1) ハハハハ	(2) ワッハハハ

各学年 10 % をこえる嫌いな笑い (% 多い順)

	1 位	2 位	3 位
1 年	(25) ウヒャー	(34) キャッキャ	(18) ブッ
2 年	(25) ウヒャー	(8) オホホホ	(34) キャッキャ
3 年	(14) ヒヒヒヒ	(8) オホホホ	
4 年	(8) オホホホ		
5 年	(8) オホホホ	(20) イッヒヒヒ	
6 年	(8) オホホホ	(32) ニヤニヤ	

	笑いたい時	1	2	3	4	5	6年
他	人がおならをした時						
	人がましがえた時						
	人がだまされた時						
	人が失敗した時						
	人が泣く時						
人	人がころんだ時						
	人がバカをした時						
	人がずっこけた時						
	いやらしい事を言う						
	人がおこられると						
人	おかしい事をした時						
	人が狂った時						
	人がバカ笑いをする						
	人が静かにしてる時						
	人がわざと笑う時						
人	人にくすぐられた時						
	みんなが笑うと						
	人にほめられると						
	何かを買ってもら						
	客が来た時						

○第一位が5%以上を示すもの

調査 3-A 表 (1)

実験は5%以上の回答率を表わす

年	(4)	(8)	(2)	(6)	(1)	(4)	(8)
1	例 キラキラキラ	(14)	(3)	(7)	(8)	(3)	(5)
2	----- (4)	----- (3)	----- (7)	----- (11)	----- (5)	----- (0.8)	----- (2)
3	----- (6)	----- (8)	----- (8)	----- (6)	----- (6)	----- (6)	----- (6)
4	----- (10)	----- (8)	----- (5)	----- (5)	----- (6)	----- (3)	----- (7)
5	----- (14)	----- (14)	----- (11)	----- (5)	----- (0)	----- (10)	----- (1)
6	----- (12)	----- (16)	----- (11)	----- (4)	----- (4)	----- (3)	----- (2)
1番目に多いイデムーン	サル・小さい子	上品ぶっている	おもしろいとき・おみない	おもしろい・バカ	おもしろい・怪人二十面相	バカみたい	おなら・笑いをがまんしきれない
注目すべきイデムーン	はしやぐ(4) はからしい(4・6)	自慢(5・6)	おなかをかがえる(6) ぬみがない(6) 書かなかんし(3・5・6)	下品な笑い(4・6) 何んてそんなにおかしいの(5) わざとわらっている(6) 図々しい(6)	さまあみろ(4) 明商店発行人(6)	おほげ 人を邪魔(5)	だまされたのに気づかない(4) 無理にわらっている(6)

年	(4)	(6)	(2)	(0)	(1)	(4)	(1)	(5)
1	例 クリソ	----- (4)	----- (7)	----- (6)	----- (1)	----- (1)	----- (5)	----- (2)
2	----- (3)	----- (7)	----- (5)	----- (6)	----- (0)	----- (2)	----- (2)	----- (2)
3	----- (3)	----- (2)	----- (2)	----- (3)	----- (3)	----- (2)	----- (0.9)	----- (1)
4	----- (1)	----- (1)	----- (6)	----- (4)	----- (5)	----- (0)	----- (1)	----- (0.4)
5	----- (2)	----- (2)	----- (6)	----- (2)	----- (5)	----- (3)	----- (4)	----- (2)
1番目に多いイデムーン	いたずらなにかめたとき	おなら	ひみろ(2) 人のおかし(6)	たくらんでいる	カエル・きもわるい からかう(6)	うれしそう	変なわらい方	
注目すべきイデムーン								

○第一位が5%以下のもの(2)

番号	笑 い	一番多いイデムーン	注目すべきイデムーン
(20)	イラヒヒ	たくらんでいる(1)	顔つきがわるい(2) 目つきがこわい(2) 人を邪魔(5) 気ちがいじみている(5)
(5)	ツラツラ	おもしろいこと(3・4)	まげそうなかんじ(4)
(3)	ツラツラ	上品(1・2・3・4)	バカにする(6)
(33)	ニダニダ	気持がわるい(2)	素直にわらっている(1) 気味がわるい(6)
(20)	エヘヘ	いたずら(4・5・6)	笑っているかどろ(2) 無理にわらっている(2) 堂々としていない(5)
(19)	ツラツラ	変なわらい方(1)	小さい子のわらい方(6)
(6)	ツラツラ	かぐれてわらう(3・4)	あはらしい(4) 笑い上戸(6)
(28)	ニダニダ	泥 糞(5・6)	何かあるみたい(5)
(9)	ツラツラ	上品(3・4)	すがすがしい(5)
(11)	ツラツラ	上品(3)	ぶきみ(6) 自信たっぶり(6) 悪い出しわらい(6)
(31)	ニダニダ	上品ぶっている(1・2)	つんとしている(6)
(27)	ツラツラ	牛(1・2)	
(24)	ツラツラ	変なわらい方(1)	
(22)	ツラツラ	かえら(4)	
(17)	ツラツラ	おとなしい(3)	
(13)	ツラツラ	本当におかしいのか(3)	
(23)	ツラツラ	おかし(3)	
(4)	ツラツラ	おかし(3)	

3年以上	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
好きなわけ	おもしろい	例(1)ツラツラ	例(2)ツラツラ	例(3)ツラツラ	例(4)ツラツラ	例(5)ツラツラ	例(6)ツラツラ	例(7)ツラツラ	例(8)ツラツラ	例(9)ツラツラ
出ている	楽しい	例(1)ツラツラ	例(2)ツラツラ	例(3)ツラツラ	例(4)ツラツラ	例(5)ツラツラ	例(6)ツラツラ	例(7)ツラツラ	例(8)ツラツラ	例(9)ツラツラ
わけて	上品	例(1)ツラツラ	例(2)ツラツラ	例(3)ツラツラ	例(4)ツラツラ	例(5)ツラツラ	例(6)ツラツラ	例(7)ツラツラ	例(8)ツラツラ	例(9)ツラツラ
好む	良い	例(1)ツラツラ	例(2)ツラツラ	例(3)ツラツラ	例(4)ツラツラ	例(5)ツラツラ	例(6)ツラツラ	例(7)ツラツラ	例(8)ツラツラ	例(9)ツラツラ
嫌いなわけ	悪い	例(1)ツラツラ	例(2)ツラツラ	例(3)ツラツラ	例(4)ツラツラ	例(5)ツラツラ	例(6)ツラツラ	例(7)ツラツラ	例(8)ツラツラ	例(9)ツラツラ
愛持	愛持	例(1)ツラツラ	例(2)ツラツラ	例(3)ツラツラ	例(4)ツラツラ	例(5)ツラツラ	例(6)ツラツラ	例(7)ツラツラ	例(8)ツラツラ	例(9)ツラツラ
おなら	おなら	例(1)ツラツラ	例(2)ツラツラ	例(3)ツラツラ	例(4)ツラツラ	例(5)ツラツラ	例(6)ツラツラ	例(7)ツラツラ	例(8)ツラツラ	例(9)ツラツラ
上品	上品	例(1)ツラツラ	例(2)ツラツラ	例(3)ツラツラ	例(4)ツラツラ	例(5)ツラツラ	例(6)ツラツラ	例(7)ツラツラ	例(8)ツラツラ	例(9)ツラツラ
下品	下品	例(1)ツラツラ	例(2)ツラツラ	例(3)ツラツラ	例(4)ツラツラ	例(5)ツラツラ	例(6)ツラツラ	例(7)ツラツラ	例(8)ツラツラ	例(9)ツラツラ
女の大人	女の大人	例(1)ツラツラ	例(2)ツラツラ	例(3)ツラツラ	例(4)ツラツラ	例(5)ツラツラ	例(6)ツラツラ	例(7)ツラツラ	例(8)ツラツラ	例(9)ツラツラ

(○)印のものは10%以上のもの